

令和六年遊就館特別展

平ラゲタゾ

兵食

HEI-SHOKU



「酒保」小野寺秋風画

SPECIAL EXHIBITION 2024 Military Ration

From meals for the Japanese Army and Navy to "offerings" to the spirits of war

11月16日(土)

令和6年3月16日(土) ~ ~~12月8日(日)~~

改修工事のため開催期間短縮となります。

【休館日】令和6年6月24日(月)~26日(水) 【開館時間】午前9時~午後4時30分(入館は閉館の30分前まで)

Closed / June 24(MON)-26(WED), 2024

Hours / 9:00a.m.~4:30p.m. (Last Admission at 4:00p.m.)

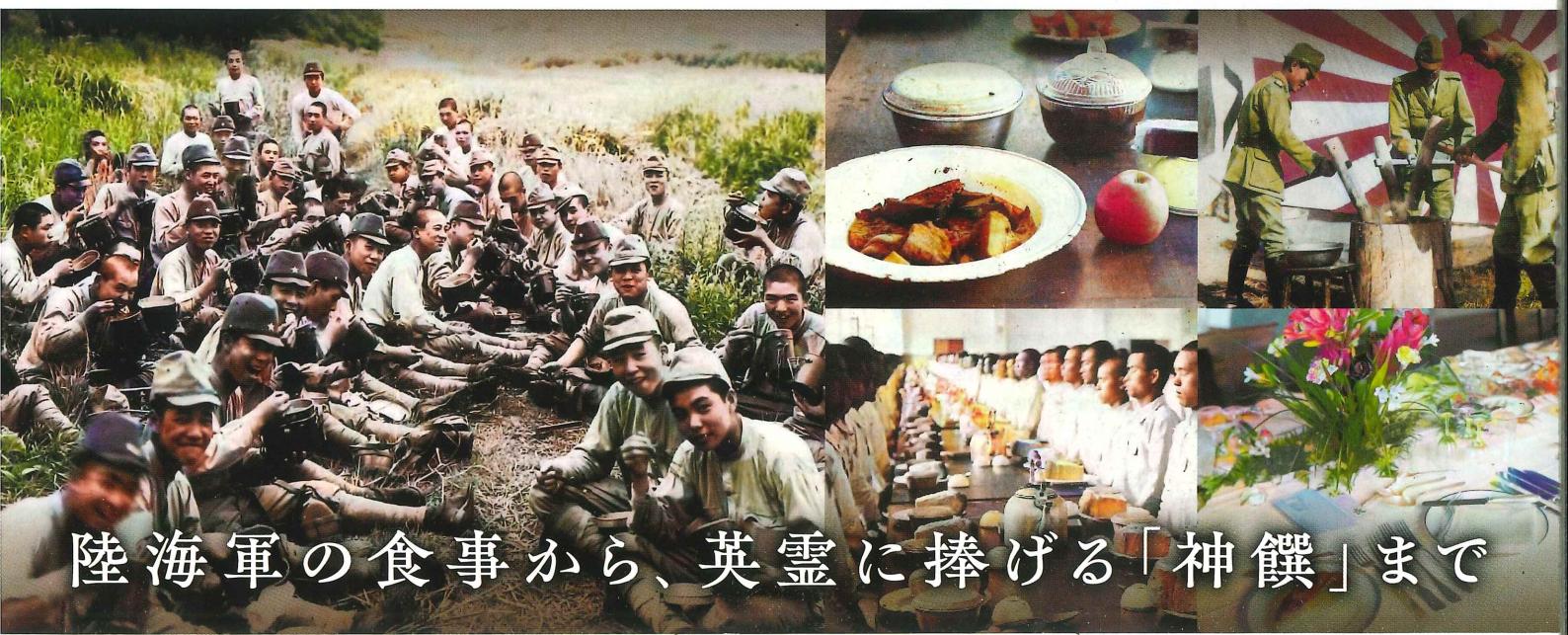
【拝観料】大人 300円 / 大学生 200円 / 高校生 100円 ※中学生以下及び崇敬奉賛会会員・常設展拝観者無料

靖國神社



遊就館

YUSHUKAN
MUSEUM



陸海軍の食事から、英靈に捧げる「神饌」まで

「兵食」とは

陸海軍の「兵食」の歴史をひも解くとともに、当時のレシピを基に代表的なメニューを再現。



英靈と「食」

苛烈な戦地で思いを馳せたのは、郷土料理やお餅、出征前の最後の食事、そして母の味でした。御遺品の中から「食」にまつわるゆかりの品々を展示、エピソードをそえて紹介。

高橋武男命(フィリピン北部ルソン島にて戦病死)

【愛する娘からの絵手紙】

節分の豆まきの様子を

父に伝えようと娘が送った絵手紙。

「(豆を)おくれないから、とこのまの、

お父ちゃんのしゃしんに

かざっておいたからごめんなさい」

※(戦地に豆を送ることが出来ないので床の間のお父さんの写真の前に飾りました。

送れなくてごめんなさい。)とあり、出征した父への健気な様子が伺えます。



宮久地寅吉命

(江蘇省連雲港にて戦死)

【家族宛て書簡】

「枇杷はいくら食いたくても食はれません」

出身地の千葉県安房郡富浦町(現:南房総市)は枇杷の名産地として知られています。家族に宛てた手紙には、故郷の山のこと、蝉の声が懐かしいこと、枇杷の収穫を案するなど、望郷の言葉が散りばめられています。

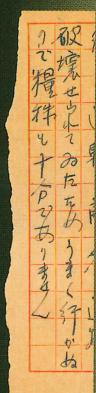
森美喜命

(ソロモン群島ガダルカナル島にて戦死)

【支那事変時に書かれた母宛ての書簡】

「種株も十分でありません」

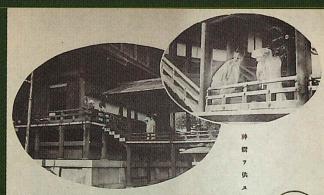
戦地で食料が不足している実情が伺えます。



英靈に捧げる「食」

靖國神社では、例大祭をはじめ様々な祭典に「神饌」(神様のお食事)が欠かせません。

祭典でお供えする神饌や全国から年中奉納される「食」を紹介し、英靈の奉慰のために「食」を捧げる重要性を考えます。



例大祭の献饌の様子 ※戦前
(神饌をお供えする儀式)



年3回行われる「明治神宮 靖國神社
献饌講」の餅つき奉仕

献饌講は、昭和17年に茨城県前渡村(現:ひたちなか市)の崇敬者で結成されました。戦中戦後の困難な時代を経て今に至るまで、毎日の「献饌米」奉納や大祭の「餅搗」など、真心こもる奉仕が続いている。

靖國神社



〒102-8246 東京都千代田区九段北3-1-1

TEL.03-3261-8326 FAX.03-3261-0996

<https://www.yasukuni.or.jp/>

J R ●総武線・中央線…「市ヶ谷駅」「飯田橋駅」からいずれも徒歩10分
地下鉄 ●東西線・半蔵門線・都営新宿線……「九段下」から徒歩10分

●東西線・有楽町線・都営大江戸線…「飯田橋駅」から徒歩10分

●南北線・有楽町線・都営新宿線……「市ヶ谷駅」から徒歩10分

陸海軍の食事から、
英靈に捧げる「神饌」まで

兵食

HEI-SHOKU

軍務は「兵食」無くして成り立たず、靖國神社の御祭神一柱一柱の畢生もまた「兵食」と共にありました。

先の大東亜戦争は広大な戦域であった為に、補給路の確保は勝敗を決する要の一つとされました。たとえば、「餓島」ともいわれたガダルカナル島では、輸送船のみならず潜水艦など様々な手段で将兵に食料や水を送り届けようとしたが、その多くが水際で阻まれた正に補給戦に敗れた戦域でした。他の戦場においても、糧秣に困窮しながら奮戦され、一粒の米さえ口にすることなく最期を迎えた多くの御祭神がおられました。

靖國神社では、こうして亡くなられた戦歿者をはじめ全ての御祭神を慰靈し、お称え申し上げるために日毎朝夕・月毎・年毎の祭祀を行い、神前には御祭神が生前召し上がられた数々の食品をお供えしております。

この度の特別展では「祭祀と神饌」について、さらに軍務のなかで「つかの間の楽しみであった食」をご紹介申し上げると共に「食する事かなわず身罷られた」多くの御祭神の史資料を展示解説しております。

時を超えて往時の労苦を偲びつつ、その「みこころ」を感じていただければ幸いです。

靖國神社

